

こま ば の こ う えん  
駒場野公園

所在地・・・東京都目黒区駒場2-19-70

面積・・・39,025㎡

実施主体・・・目黒区都市整備部みどり公園課

問合せ先・・・【住所】東京都目黒区上目黒二丁目19番15号  
【TEL】03-5722-9745

駒場野公園

## 整備の概要

整備実施期間・・・昭和58年～平成19年度(1983年～2007年度)

## ①「自然遷移の実施」に向けた整備手法

## Step1: 専門家や住民を交えた自然実態調査

「街の自然十二ヶ月」発行に伴い、専門家を交えて区内各所の自然の調査を行い、当地の自然の特性を把握した。また、地元住民と現地にて行った野鳥や野草の観察会の中で、意見交換を図り、現状の自然環境への認識を深めた。

## Step2: 日常的に自然と触れ合うことのできる里山のような環境づくりの計画

カルガモ、コサギなどの水鳥が訪れる既存の池をバードサンクチュアリと位置づけ、自然観察、自然の保全の拠点とした。また、残されていた水田付近では、水田での耕作を続けられるようにするとともに、水田風景の形成を図った。既存樹のアカマツ、クヌギを中心として雑木林を形成し、生態系の保護を計るための場をつくった。

## Step3: 生き物と共生する整備

ため池は、一部へドロの浚渫を行い、周辺からの雑排水が流入しないようにした。また護岸を自然石積みとし、魚や昆虫等の小動物の生息地とした。伐採した樹木や剪定枝は、丸太や粗朶として残し小動物の生息環境とした。

## ② 整備時の協働者との関わり ⇒ 専門家及び区民

専門家を交えて自然の調査を行った。また、地元住民と現地にて野鳥や野草の観察会や意見交換を行う中で、現状の自然環境への認識を深めた。整備後の管理まで住民参加がつながるように協力して活動した。

## ③ 整備時の留意点

- \* 公園予定地内の樹木の剪定・伐採の作業に区民に立ち会ってもらった。
- \* さらに、エノキの根元で越冬しているゴマダラチョウの幼虫を樹木の移植前に住民の参加を得て、移植予定地へ移転する作業を行った。

## 事業効果

- 樹木が成長し林床が暗くなったことで、草本類が減少したが、萌芽更新を行うことで、林床の植物が回復した(特に雑木林の特徴であるタチツボスミレの群落が回復)
- 林床を保全することで、区内でも生息が限られているアズマモグラの生息が確認されている。昆虫類ではゴマダラチョウ、オトシブミ、コクワガタなどの生息が引き続き確認されている。
- 池・水田ではカワセミ、カルガモの飛来が確認され、オニヤンマ、ヤブヤンマ、キアゲハなどが確認されている。
- 自然クラブではクモ類、キノコ類の調査を毎年継続的に行っており、都市公園でのクモやキノコの分布に関する新たな事実や当公園の特徴などが明らかになってきている。
- 平成7年(1995年)に一部公園が拡張し、自然観察や管理活動の拠点となる自然観察舎が整備され、各活動を安定的に行うことが出来るようになった。

対象地の概要・・・東京教育大学農学部跡地を公園としたもので、明治初期に駒場農学校として開校したときに日本初の実験用水田が整備され、これが現在もケルネル水田として残っている。この水田や用水池、既存の樹林を保全しつつ、新たな植栽を合わせ、里山の環境を目指している公園である。計画時から地域の住民とともに自然を守り育てる公園として開園し、以後住民との協働により運営を進めてきた。都市の中で雑木林や水田が残る貴重な空間であり、活動の中で雑木林の萌芽更新作業や動植物の調査も継続的に行われている。

## 事業への取組みのきっかけ

目黒区全域で専門家を交えた自然の調査を行ったところ、当地は区内有数の自然を持つことが再認識され、これを基に公園の基本構想を考えることとなった。また、地元住民の間からも、残された自然資源(水田、雑木林)が都市の自然として貴重なこと、歴史的意義の大きいものとして、保全・活用を考える動きが出ていた。そこで、当地の公園整備計画は、自然の保全と活用を軸とし、地元住民と一体となり進めていくこととした。

## 維持管理の概要

## ④「自然遷移の実施」に向けた維持管理内容

住民参加型の自然管理を行うため、自然クラブやホタルの会等による環境調査や下草刈りを行っている。林の生長とともに萌芽更新を行う必要性から、既存団体以外に新たに樹林のボランティア講座を行い、設立した森のみどり人(すと)を含めた活動で、雑木林の萌芽更新やしいたけ栽培、炭焼き等の保全活動を連携し行っている。

## ⑤ 維持管理時の協働者との関わり ⇒ 駒場野公園: 市民団体(駒場野自然クラブ・森のみどり人(すと))・駒場野ホタルの会・こまばリサイクルの会)

樹木伐採を伴う萌芽更新等の管理活動の理解を得るため、公園で活動する自然クラブやホタルの会、森のみどり人などの参加団体と協力し、キノコ作りや炭焼きなど、出来るだけ多くの住民が参加できるプログラムを組むほか、公園で行われる地元の「こまばの祭り」にも参加している。

## ⑥ 維持管理時の留意点

- \* 市街地にある公園であるため、樹木伐採を伴う萌芽更新等の管理活動の理解を得るPRに努めることが必要である。
- \* このためには出来るだけ多くの住民が参加できるプログラムを組むとともに、伐採作業での安全対策も必要である。
- \* また伐採作業中に抗議を受けることもあり、必要性などを解説した広報板等を使い、参加している住民とともに説明するなど啓発を推進することも重要である。

## 備考

## 現在の課題

公園が開園して以来、協働で活動しているホタルの会など地元住民は高齢化しつつあり、新たな若い世代の参加が見られない。自然クラブも核となるリーダーが変らず、若い世代は、子供が希望する間は参加するが、子供の成長とともに参加が減り、常にメンバー交代している。

## 今後の展望

区職員とともに自然観察舎の業務を委託している専門業者が、公園の自然環境を把握しつつ、住民団体との調整や来園者への啓発を図ることで、継続的に自然環境の保全、生物多様性の確保を行っていく。

## その他

区との協定により、水田の耕作は筑波大学附属駒場中・高等学校が授業の中で行っている。